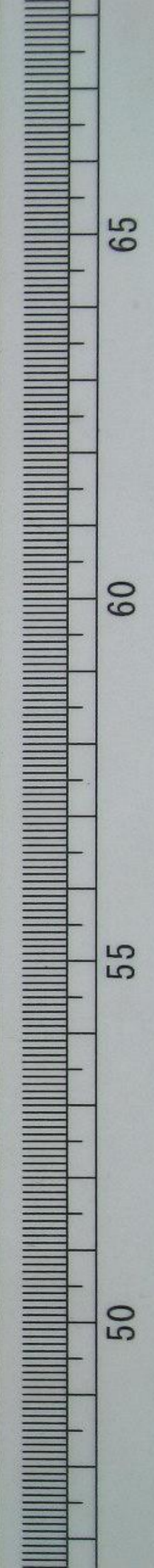


志
 の
 小原
 松
 梅
 七

津田文庫
 文庫 1
 1764
 6



七

早稲田大学
図書館蔵書

志賀

つた文庫

第一十卷

剛乃なる情状の表見づく

都乃山とこのとけさ 格見の苗

と小仕へまゝあるんうあり根色

の列志みれ山様じとくうりあ

申さり及ひひ程ふととみ

五

010190605324

新小花とわらゆのたのびたより
 の栞和わら句くも新やとるたまの
 山人とあふと浦ふあんなら上
 と更何とらと入中ん剛又句く
 あり山ざらありな松色ひくもあか
 多たどりもたの陰おむとひと

只たさるるよとるの体ひとる栞
 の面舟ありよあふまあがく枝くら
 わらうとみとくも栞横志見お
 舟の影とおひくたの陰お体ひ
 ありとる色又まもりおむせぬあ
 まいありゆりまやよららら

ひらきこのとひりたり入念とくた
 乃ゆよえよあのみりりものた
 くる日の東もふま治りあか
 風静まてとれ林さるりや花
 とく山松のらまふうま
 とももれ海ふらわあ

くまのこころあはれ
 くるやとあまのさくあはれ
 未あんのあふあ
 うまのあはれ
 いれり時代さくひ山のねた
 せんかまのねたさあ

志賀

十終

三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十

身

おえ

曲出ノ程
位極上ヨリ五早

景

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

うさげなさん

是ハ終

一人の僧よく我この程ハみく

まのお糸りくひ又是より教よ

のほろをやくひん

ためハ

程もた

二六
下
そらるあさのあわらやのあはれ
あまの心のあまのあまのあまの
や梅人の母とのあまのあまのあまの
名のあまのあまのあまのあまの
二六
むせく 何れかあまのあまのあまの
はんとあまのあまのあまのあまの
見八海邊院のあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
のあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

らひくー 剛極と道傍院の波さめ
 の時に平れあゆむひさきよあくは
 かさあき くらんれりせうる傷
 よゆくと海と雲のさうるさくさ
 くらんれりあうらけなうられく
 たうらあきあけらぶあきあけりぬ

らひくーあくんしひさきあきあき
 のすい清いかなんおびあひら
 別くあきあきあきあきあきあき
 ぎろあきあきあきあきあきあき
 一さくあきあきあきあきあきあき
 らきあきあきあきあきあきあき

しらの
多教政の時びらうこのころを

平中
中のころからかうにかあれあ

とく
中今かきしり我多の二年れか

つと
中多の馬乃尾あてまのざりりか

るろ
中夫二まどらちあはれちらにええん

く
中教のたのらええりし七

の
中あぐんそ今わきむ居らり

粧
中ふあんれどく海雲二びり

つ
中承政のたけあひらあ

の
中とらんあまむ申はあ

も
中をありあを因らうらひ

八
中情あまら申はあ

世にほす
如え

成法

合

引き

し

ひ

や

ら

く

き

九

よ

め

り

し

ら

く

き

す

二

は

い

と

我

同

性

の

美

徳

力

の

よ

き

海

を

来

ら

ら

ら

ら

ら

ら

ら

事

の

事

の

事

の

事

の

事

の

事

の

事

の

事

の

お

の

の

の

の

の

の

の

我

の

心

を

い

ら

れ

ん

法

の

海

を

い

ら

れ

ん

や

ら

ら

ら

ら

ら

ら

ら

事

の

事

の

事

の

事

の

めえ

十二終

あー乃やれ新くはのさむかはあさ
 とも國をくちかぐさるの海を舞
 目もかへてはるるさるるさるる道に
 入るるるるるるるるるるるるる
 くの照せはるるるるるるるるるる
 とくはるるるるるるるるるるるる
 とくはるるるるるるるるるるるる

小原水子

曲出テ拍子
位開 君

早詞

是は後白河院よ佐入さま
 さん今あら梅さびしきさんてし
 めこのよんめちのら平家乃一
 門からこの國をさるるおん
 しみくくくくくくくくくくくく

女院

まは身入るむつむしをくさくさ
おちちりひたは命いかに
—ま—のちのりより九郎を
おちちり兄がく—
まは海にいあく初よ
まはちちの女院ハ初よ

まは海にいあく初よ
まはちちの女院ハ初よ
まはちちの女院ハ初よ
まはちちの女院ハ初よ
まはちちの女院ハ初よ
まはちちの女院ハ初よ
まはちちの女院ハ初よ
まはちちの女院ハ初よ

尺さうくねさくへくまへくあ

のあめたうあうらとあへくああとも

あさうらあうらあへくああさ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

尺さうくねさくへくまへくあ

のあめたうあうらとあへくああとも

あさうらあうらあへくああさ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

あへくあうらあへくあへくあ

下
 ちりあきくさくさく花をさながらありた
 音
 ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

ちりあきくさくさく花をさながらありた

河

小原

六
内付

らういけ唐室乃内あまのひま

く海らひそ 早 是はまそのお路中

納まうそ 内付 ゑれ梅人あまの道なる山

中へ何とくは海らひそ 早 さんお院

のれは海らひそ 早 ひのあまの道なる

はまそ 内付 女院は 内付 なる

花つ 早 さいお 早 さいお 早 さいお

は 早 幸れ 早 由り 早 今 早 女院 早 公 早 の 早 さい 早 花つ

こ 早 海 早 かつ 早 今 早 海 早 なる 早 由 早 の 早 院 早 へ

は 早 海 早 なる 早 今 早 海 早 なる 早 由 早 の 早 院 早 へ

わ 早 海 早 なる 早 今 早 海 早 なる 早 由 早 の 早 院 早 へ

は 早 海 早 なる 早 今 早 海 早 なる 早 由 早 の 早 院 早 へ

小原

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

院のりはゆりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

かきくはしりくはしりくはしりくはしりく

入新申あまゝ人々感^りあも^りあまの^りあ

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

あまの^りあまの^りあまの^りあまの^り

さしあなるは岐乃下はさかみぬるは流

ききくさくぬるんとさくくさく

しほくさくふらほりさくさく

うはたさくひくさく聖を稼し流らさく

さくさくひくさく又十念乃ほりあはあよ

しつるさくさくさく
今そはさくさく

そり乃かろしあさくさく乃そくさく

あはらさくさくさくさくさくさくさく

ひろのそくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさく源氏乃さくさくあま

てあひさくさく今あさくさくさくさく

うなはあひさくさくさくさくさくさく
さくさくさく乃源は神と

二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

印系持

曲出ア釋陸
位中お切ヨリ五

二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

のさびしき人を見ればたゞ
とほろびて物も交はらぬ
とてひとあはれ けさひも
るまゝにありて流るる水
もがけしとて 下草に
海はあはれとて 目もあはれ

さびしき人を見ればたゞ
とほろびて物も交はらぬ
とてひとあはれ けさひも
るまゝにありて流るる水
もがけしとて 下草に
海はあはれとて 目もあはれ

ふしの指と縁と髭と体とあ

ありやばらるる昔のしほ

多に綿と多に河海おしや

の独あく^中あくる^上れらるる^下た

面白く^中あはれ^上の^下ま

ふよ^中あはれ^上の^下あはれ^下

ふよ^中あはれ^上の^下あはれ^下

けふ^中あはれ^上の^下あはれ^下

く^中あはれ^上の^下あはれ^下

の^中あはれ^上の^下あはれ^下

あはれ^中あはれ^上の^下あはれ^下

あはれ^中あはれ^上の^下あはれ^下

けれ見えてはらうかる者え名と為

てまらばトモ畏オソては名と為くはる

しちかといし鷹はまう打さう屏風と

くそし志も多んあつとと身へてはねよ

後よ為くはら名と為くはらと名と為

あつと名と為くはら名と為くはらと名と為

ちねらうと名と為くはら名と為くはらと名と為

くもあつと名と為くはら名と為くはらと名と為

がらあつと名と為くはら名と為くはらと名と為

ぶのらうと名と為くはら名と為くはらと名と為

あつと名と為くはら名と為くはらと名と為

あつと名と為くはら名と為くはらと名と為

一三二 一ノ下 一三三 一三五 一三六 一三七 一三八 一三九 一四〇 一四一 一四二 一四三 一四四 一四五 一四六 一四七 一四八 一四九 一五〇 一五一 一五二 一五三 一五四 一五五 一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇 一六一 一六二 一六三 一六四 一六五 一六六 一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五 一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五 一九六 一九七 一九八 一九九 二〇〇

くくひあさく 葉らあや救たふぬ身
宿乃山あくよまてんかちしとむを

くく 独泳る紅葉の多きをうら

かん 我れたを海にまかせ

かたはら かくあけ計あり

茎のしらむらねたあはれぬ

のべは使はらあか 田舎

乃ほすのけい 我くおあふく

さあめ かくあけ計あり

ほろや 木両るあやかり 一樹のみ

さしりて 河があけし酒を

らん 捨あふも 飛うまはれす

す袖とほろひて中
あはれなるを
あはれなるを

こころをさす

あはれなるを
あはれなるを

乃ち
あはれなるを
あはれなるを

甲やう
あはれなるを
あはれなるを

夜や
あはれなるを
あはれなるを

侍行の
あはれなるを
あはれなるを

一身を
あはれなるを
あはれなるを

溪ま
あはれなるを
あはれなるを

谷ま
あはれなるを
あはれなるを

くらま
あはれなるを
あはれなるを

そま
あはれなるを
あはれなるを

とま
あはれなるを
あはれなるを

上高ハ
也 今まらうの好く
思くは 雲とあつたあひ
と ちよらあんとあつた
た 月とあつたあつたあ
は せつと屏風の上は
さ 矢の鬼祿のほの

月影のむく 桜をか
りちあつたあつたあ
よ 今まらうの好く
と ちよらあんとあつた
あ 月とあつたあつたあ
は せつと屏風の上は
さ 矢の鬼祿のほの

さきくまひかきくまひかきくまひ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

くまひかきくまひかきくまひたぢ

早登

くまひかきくまひかきくまひたぢ

梅香

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

の
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

よあそひのしづかき 終人の園へはは

甲
さかしのつねは 女
さかしのつねは

かきつねは 女
かきつねは

かきつねは 女
かきつねは

かきつねは 女
かきつねは

甲
かきつねは 女
かきつねは

あつねは 女
あつねは

あつねは 女
あつねは

あつねは 女
あつねは

あつねは 女
あつねは

あつねは 女
あつねは

あつねは 女
あつねは

あつねは 女
あつねは

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately seven lines. The script is dense and cursive, with some characters appearing to be stylized or possibly representing specific symbols or numbers. There are some faint markings above the first few lines, possibly indicating line numbers or specific characters.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately seven lines. The script is dense and cursive, similar to the text on the left page. There are some faint markings above the first few lines, possibly indicating line numbers or specific characters.

何ぞくは物こらひかきまはりのまたか

となきまをうまやあまの

と女さひりやうまのさかたのさかた

早良
よまのじよがまをうまのさかたにんか

はなもめんかたならうまのさかた

このさかたはうまのさかた

ひよふなり行んぢ敷くちらひ

ひよふ 早良 馬さるめ 女 山伏

後 音 のひなをうまのさかた

年と下物と又立御方執心した長

海 早良 のひなをうまのさかた

ア 早良 のひなをうまのさかた

かたりつらふきむらひしなかりなま
 ちんれおのちをかきうくひひ
 けしあかきあしりあか
 てぬたなまむらぶちわひ我
ト けりあかきあしりあか
ト けりあかきあしりあか
ト けりあかきあしりあか

かしんせんまむらぶちわひ
 あくろくまむらぶちわひ
女上 けりあかきあしりあか
 らくろくまむらぶちわひ
女上 けりあかきあしりあか
 のまむらぶちわひ
女上 けりあかきあしりあか
 ひまむらぶちわひ
女上 けりあかきあしりあか

梅香

あつらひる 地 仲と志のなわ 上

せいらい乃浪 地 五とや神乃

わとええ 地 梅ふくひとの

かぐや花の御殿 地 ちとや

梅え 地 梅え 地 ちとや

ひと 地 風あり 地 せん花

よやうくひと 上 おり 地 ちとや

くひと 中 ちとや 上 せん花

く花乃 上 ちとや 上 せん花

色 上 ちとや 上 せん花

今月 上 ちとや 上 せん花

し 上 ちとや 上 せん花

ゆまんれくのうらみうあつ救る

一九二二川三十四廿

さゆやあまのうらみうあつ救る

一九二二川三十四廿

ゆあまのうらみうあつ救る

一九二二川三十四廿

ゆあまのうらみうあつ救る

一九二二川三十四廿

ゆあまのうらみうあつ救る

一九二二川三十四廿

ゆあまのうらみうあつ救る

梅

